



教員紹介

リハビリテーション学部

大古 拓史 OHKO Hiroshi

職位	講師
最終学歴	和歌山県立医科大学 大学院医学研究科 博士課程単位取得後 満期退学
職歴	社会医療法人 黎明会 北出病院 リハビリテーション科を経て現職
学位	和歌山県立医科大学 大学院医学研究科 博士（医学，甲 628 号），修士（医科学，第 68 号）
資格（免許）、認定	理学療法士[第 59793 号] / 初級システムアドミニストレーター[22908 号] / 日商簿記 2 級[第 2097 号] / 認定理学療法士（学校教育）[23-22] / （脳卒中）[3-351] / （運動器）[7-246] / 健康経営エキスパートアドバイザー
担当科目（学部）	「神経筋障害理学療法学」 / 「神経筋障害理学療法学実習」 / 「義肢装具学」 / 「義肢装具学実習」 / 「神経病学」 / 「理学療法総合技術演習」 「理学療法学研究法演習」 / 「理学療法学研究法特論」他
担当科目（大学院）	「運動障害学特論 I」
学生へのメッセージ	自分の未来（5 年後，10 年後）を見据え，今何が必要であるかを考える手助けをすると共に，将来出会う方々（患者含め）と向き合い，恐れず逃げずに立ち向かう理学療法士になっていただきたい。 学ぶことの面白さを伝え，自ら学ぶ姿勢を身につけることができる指導を実践する。また，学生自身もその指導ができるように育成を行いたい。星城大学の 1 期生として，自らの経験を踏まえ皆さんをサポートしていきます。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性膝関節症者の膝関節屈曲角度改善と膝蓋骨可動性に関する研究 ・運動とマイオカイン（BDNF）に関する研究 ・臨床実習指導に関する研究 ・障がい者スポーツに関する研究
研究分野キーワード	理学療法学 / 膝 OA / 身体活動量 / patellar mobility / myokine / 臨床実習 / 障がい者スポーツ / BDNF
URL	KAKEN https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060715126/ Researchmap https://researchmap.jp/ohkohiroshi/
著書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 太田進，藤田玲美，大古拓史. 動画でわかる運動器理学療法臨床実習スキル，中山書店，2021. 2) 久保俊一，田島文博編集. 急性期のリハビリテーション医学・医療テキスト. 金芳堂. 執筆協力者. 2020. 3) 久保俊一，田島文博編集. 大古拓史. イラストと写真でわかる実践装具療法-装具の選択と疾患別使用例-. 金芳堂. P.103-107. 2015.

- 1) Iwai K, Kubo Y, **Ohko H**. Prevalence of comorbidities and their association with health literacy in patients undergoing outpatient rehabilitation for musculoskeletal conditions: A multi-center cross-sectional study. *Aging Medicine and Healthcare*. 2024. (*in press*)
- 2) **Ohko H**, Ota S. Sex-based differences and relationship with the restricted knee flexion angle due to aging: a comparative study. *BMC musculoskeletal disorders* 24(1). 348-348. 2023.
- 3) **大古拓史**, 梅本安則, 田島文博. 若年健常男性における温浴を併用した運動療法が血中 BDNF 濃度に与える影響. *日本温泉気候物理医学会雑誌*. 86 (2) , 33-40. 2023.
- 4) 小沢 勇貴, **大古拓史**, 菅谷 真帆, 川崎 慎二. 整形外科クリニック外来患者へのホームエクササイズが身体活動量及び身体機能に与える影響 — COVID-19 による外出機会減少に対する試験的介入—. *地域理学療法学* (*in press*) .
- 5) **Ohko H**, Umemoto Y, Sakurai Y, Araki S, Kojima D, Kamijo Y, Murai K, Yasuoka Y, Tajima F. The effects of endurance exercise combined with high-temperature head-out water immersion on serum concentration of brain-derived neurotrophic factor in healthy young men. *International journal of Hyperthermia*. 38(1): 1077-1085. 2021.
- 6) **Ohko H**, Umemoto Y, Kojima D, Nishimura Y, Mikami Y, Kouda K, Ogawa T, Tajima F. Hot bathing has the potential to provide a new means of secreting brain-derived neurotrophic factor. *COGNITION & REHABILITATION*. 2-1: 77-86. 2021.
- 7) **大古拓史**, 野々垣 政志, 高尾 和孝, 小川 真輝, 梶原 史恵, 大川 裕行. 臨床実習における理学療法実習生の身体的・精神的活動量の経時的変化. *理学療法科学*. 36(6) : 793-797. 2021.
- 8) Yasuoka Y, Nakamura T, Umemoto Y, Kinoshita T, Hoekstra SP, Hoshiai K, **Ohko H**, Abo M, Tajima F. An 18-hole round of golf acutely elevates serum interleukin-6 and brain-derived neurotrophic factor concentration - a pilot study. *J Phys Fitness Sports Med*. 11 (1): 1-7. 2022.
- 9) Ota S, Fujita R, **Ohko H**, Imai A. Effects of gait and activities of daily living modifications for improving knee joint function in community-dwelling middle-aged and older people -a randomized control study-. *J Musculoskelet Res*. 24(2): 2150007. 2021.
- 10) 太田進、藤田玲美、**大古拓史**、村上慈葉. 早期変形性膝関節症の運動療法。－歩行再トレーニング (gait retraining) を含めて－. *整形・災害外科*. 64: 293-299, 2021.
- 11) Ochi A, **Ohko H**, Hayashi T, Osawa T, Sugiyama Y, Nakamura S, Ibuki S, Ichihashi N. Relationship between balance recovery from a forward fall and lower-limb rate of torque development. *Journal of Motor Behavior*. 52(1) 71-78. 2020.
- 12) **Ohko H**, Kajihara F, Hayashi T, Ochi A, Kumagawa K, Okawa H. Physical Activity and Daily Nutrient Intake for Prevention of Lifestyle-Related Diseases in Individuals with Spinal Cord Injury.

Biomed J Sci & Tech Res 14(1)-2019. BJSTR. MS. ID. 002495.

- 13) Ochi A, Ohko H, Ota S, Shimoichi N, Takemoto T, Mitsuke K. Custom-made hinged knee braces with extension support can improve dynamic balance. Journal of exercise science and fitness. 16(3) 94-98, 2018.
- 14) Ochi A, Fukumoto M, Takami R, Ohko H, Hayashi T, Yamada K. Effect of ankle stretching combined with arm cycling on the improvement of calf muscle stiffness in patients with stroke: a pilot study. Journal of physical therapy science. 30(10) 1305-1309, 2018.
- 15) 越智 亮, 福本 将久, 高見 亮介, 大古 拓史, 林 尊弘, 山田 和政. 特別制作した受動トルク計測器で得られた下腿三頭筋スティフネスの基準関連妥当性と再現性の検証. 理学療法科学. 33(4), 591-596, 2018.
- 16) 大古拓史. 脳血管障害, 大腿骨頸部・転子部骨折患者の回復期における積極的運動療法. 理療 Vol 47 No4, 44-53. 2018.
- 17) Ota S, Ohko H. Sex differences in passive lateral and medial patellar mobility in healthy young adults. J Back Musculoskelet Rehabil 31: 127-132, 2018.
- 18) 大古拓史, 梶原史恵, 熊川景子, 大川裕行. 頸髄損傷者の生活習慣病予防にむけた競技および日常生活活動量と栄養摂取状況に関する調査. 日本障害者スポーツ学会, 第 25 号, P. 59-62, 2017 年.

ほか 4 件

【国際学会】

- 1) Ohko H, Ota S. Reliability assessment of a patellofemoral arthrometer using a feedback device with sheet-type pressure sensors. Osteoarthritis Research Society International (Liverpool). 2018 年 4 月.
- 2) Ota S, Ogawa Y, Ota H, Fujiwara T, Sugiyama T, Fujita R, Ohko H. Acute influences of draw-in maneuver for knee adduction moment and hip and trunk muscle activities during a person's manner of walking. Osteoarthritis Research Society International (Liverpool). 2018 年 4 月.
- 3) Ohko H, Ota S. Relationship between inferior patellar mobility and knee flexion angle in community dwelling elderly females. Osteoarthritis Research Society International (Las Vegas). 2017 年 4 月.
- 4) Ota S, Ohko H, Remi Fujita, Ai Imai. Preliminary study of modifications of gait and ADL to reduce knee pain and improve knee Joint function. Osteoarthritis Research Society International (Las Vegas). 2017 年 4 月.

ほか 2 件

【国内学会】

- 1) 大古拓史, 加藤彩菜, 林浩之, 富山直輝. 脳卒中患者における 4 週間のエルゴメータ運動介入前後の安静時 BDNF 濃度と身体機能の経時的変化について. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2023 年 11 月.
- 2) 大古拓史, 梅本安則, 櫻井雄太, 安岡良訓, 吉岡和泉, 田島文博. 若年健康者における温浴を併用した自転車エルゴメータ運動時の血清 BDNF 変化. 第 38 回東海北陸理学療法学会. 2022 年 10 月.

- 3) **大古拓史**, 梅本安則, 櫻井雄太, 安岡良訓, 吉岡和泉, 田島博文. 若年健常者男性における頸下浸水温熱を併用した持久力運動が血清 BDNF 濃度に与える影響. 第 20 回 日本神経理学療法学会 学術大会. 2022 年 10 月.
- 4) **大古拓史**. 変形性膝関節症に対する介入研究—膝関節屈曲角度の改善と制限因子探求. 第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会, トピックスセミナー2, 運動器理学療法のネクストジェネレーション最新研究 (膝関節). 2022 年 9 月 24 日.
- 5) **大古拓史**, 太田進. 膝関節屈曲角度と大腿部組織柔軟性との関連について. 第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会. 2022 年 9 月 24 日.
- 6) **大古拓史**, 梅本安則, 櫻井雄太, 安岡良訓, 吉岡和泉, 田島博文. 温泉浴を併用した自転車エルゴメーター運動時の血中 BDNF 変化. 第 87 回日本温泉気候物理医学会学術集会. 2022 年 6 月 11 日.
- 7) **大古拓史**, 梶原史恵, 熊川景子, 大川裕行. 頸髄損傷者の生活習慣病予防にむけた競技活動および日常生活活動量と栄養摂取状況調査. 第 37 回東海北陸理学療法学術大会. 2021 年 10 月.
- 8) 長谷川士朗, 伊藤暉, 松本幸浩, **大古拓史**, 林尊弘. 当院回復期病棟における大腿骨骨折患者の歩行自立関連因子について. 回復期リハビリテーション病棟協会第 33 回研究大会 (舞浜市), 2019 年 2 月.
- 9) **大古拓史**, 平林卓己, 大川裕行. 臨床実習における実習形態の違いが理学療法実習生の身体的・精神的活動量に与える影響. 日本理学療法学術集会 (千葉市), 2017 年 5 月.
- 10) **大古拓史**, 太田進. 健常高齢女性における膝関節屈曲角度と膝蓋骨下方可動性の関連について. 第 26 回愛知県理学療法学術大会 (愛知県). 2017 年 3 月.

ほか 43 件

【所属学会】

- 1) 日本理学療法士協会
- 2) 愛知県理学療法士協会
- 3) ペインリハビリテーション学会
- 4) 日本体質医学会
- 5) 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会準会員
- 6) 日本障害者スポーツ学会
- 7) 日本温泉気候物理医学会
- 8) 理学療法科学学会

【公開講座・講演】

- 1) 「若さを保つ秘訣～運動・筋肉・膝機能の視点～」, 星城高校父母の会, 2023 年 9 月, 星城高校.
- 2) 「若さを保つ秘訣は筋肉にある!」, 知多市提携講座, 2023 年 9 月, 知多市中部公民館.
- 3) 「ロコモ, フレイル, サルコペニアについて」, 2018 年 3 月, 富貴ノ台整形外科.

ほか 4 件

社会的活動

(公開講座・講演・

国際交流など)

【地域貢献活動】

- 1) 地域貢献活動「脳と足の健康チェック」の運営，毎年開催．星城大学．
- 2) 脳と脚の健康チェック」フォローアップ事業（平成 29-31 年度）．

【役員その他】

- 1) 星城大学同窓会常任理事，事務局
- 2) 星城大学リハビリテーション研究会，世話人代表
- 3) 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学同門会

【外部資金獲得】

- 1) 2023-2025 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (代表) :
変形性膝関節症患者への膝屈曲改善運動介入が疼痛軽減・活動量向上に及ぼす効果検証 (課題番号 : 23K10303).
- 2) 2023-2025 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 分担研究者 :
BDNF 産生に着目した有酸素運動による脳卒中後麻痺と認知機能へのアプローチ : 臨床検証 (課題番号 : 23K10812).
- 3) 一般社団法人 日本温泉気候物理医学会 第 14 回研究奨励賞 :
温泉浴を利用した再生医療リハビリテーションにおける脳由来神経栄養因子を効率的に増加させる新たな運動療法の開発 (代表).
- 4) 2020-2022 年度 科学研究費補助金 若手研究 (代表) :
変形性膝関節症患者の膝屈曲角度改善プログラムの確立と活動量向上にむけた介入研究 (課題番号 : 20K19229).
- 5) 一般社団法人 日本損害保険協会 2020 年度 交通事故医療研究助成.
脳脊髄損傷後の再生医療リハビリテーションにおける脳由来神経栄養因子を効率的に増加させる新たな運動手法の開発 (代表).
- 6) 2017-2019 年度 科学研究費補助金 若手研究 (B) (代表) :
膝蓋骨可動性測定機器開発と膝 OA 患者の膝屈曲角度改善と活動量向上に向けた臨床研究 (課題番号 : 17K13077).
- 7) 2015-2017 年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 分担研究者 :
膝関節から生じる振動信号の解析による変形性膝関節症の早期診断方法の確立 (課題番号 : 15H03047).
- 8) 2014-2016 年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 分担研究者 :
頸髄損傷者の生活習慣病予防におけるスポーツ効果の検討
(課題番号 : 26350798).

その他